

本田の施肥法 土壌分析からの対策（改善）について ①

R2.7 アグリ技研（株）

1.土壌分析項目（特に重点項目）と定植前元肥対策

分析項目	参考基準	基準以下の場合	基準以上の場合
CEC（保肥力）	15(meq)~	堆肥やゼオライト系「 モンネン 」の施肥	数値を維持するために従来の堆肥等の施肥
腐植	3 (%) ~	堆肥等有機物と「 腐植酸 」の施肥	数値を維持するために従来の施肥
硝酸態窒素	0~5(mg)	品種、作型に応じての基準通りの施肥	元肥の減肥
交換態加里	CEC数値	堆肥等や「 硅リン酸 」の施肥	加里資材の施肥を避ける
PH	5.5~6.5	石灰類の施肥（有機質肥料の使用）	石灰類の施肥を避け、極端な場合は硫黄華の施肥
EC	0~0.3 (ms)	品種、作型に応じての基準通りの施肥	元肥の減肥 1.0近い場合には3~5割の減肥
塩基飽和度	60~90 (%)	石灰類の施肥	湛水処理や「 フシヨクフル 」の施肥
塩基バランス		石灰/苦土比5 : 苦土/加里比2 : リン酸/苦土比1にて施肥	

2.苺栽培における施肥の取り組み方 「複合環境制御に対応」

CEC	基準の数値より高くすることで環境制御に応じた栽培管理はよりし易くなる。
腐植率	生産量を高くするには土壌中からのCO2の発生（微生物）を促進させるにも可能なら5%程の維持
交換態石灰	積極的な環境制御を行うことで石灰の吸収力も高まるので育苗期から収穫中の追肥の重要性
交換態苦土	積極的な環境制御を行うことで苦土の吸収力も高まるので適正な元肥と収穫中の追肥の重要性
交換態加里	環境制御を行うことで加里での養分転流や玉肥大、根域の充実に施肥の重要性（過剰は苦土、石灰を抑制）
団粒構造改善	生育中の灌水等で排水不良や通路の溜水などの排水良好対策に「 Eba、エコ 」・「 らくらくEba 」の施肥

本田の元肥の施肥量 土壌分析からの施肥量について ②

R2.7 アグリ技研（株）

1.栽培方法の違いによる施肥 【例】

①普通期の土耕栽培（耕起の場合）			②普通期の土耕栽培（不耕起の場合）		③普通期の高設栽培	
肥料名	量	備考	肥料名	量	肥料名	量
鮮彩ロング	10～12袋	5-7-5（有機）	鮮彩ロング	5～6袋	鮮彩ロング	3～4袋
豊作源	8～10袋	カニガラ（有機）	豊作源	5～7袋	豊作源	2～3袋
珪リン酸	2～3袋	P-K肥料	珪リン酸	1～2袋	珪リン酸	土壌分析参考施肥
腐植酸	3～5袋	土壌分析参考施肥	腐植酸	2～3袋	腐植酸	
モンネン	3～5袋		モンネン	2～3袋	モンネン	
カルタマQ	5～10袋		カルタマQ	5～7袋	カルタマQ	
「マルチ前追肥」			「マルチ前追肥」		「マルチ前追肥」	
味太郎	3～5袋		味太郎	3～5袋	味太郎	3～5袋
カウボン	1～2袋		カウボン	1～2袋	カウボン	1～2袋

◎元肥の施肥では、鮮彩ロング（575）又は鮮彩美人643を施肥します。

◎味太郎は、遅効性肥料ですから元肥と同時施肥でも可能です。（チビクロ対策）

2.施肥のポイント

①有機質肥料を施肥する場合には定植前20～30日に施肥しましょう。（堆肥や石灰類の改良材は30日前に施肥）

②別紙の通りに元肥施肥全に土壌分析を行って肥料や施肥量を決めましょう。

③温暖化傾向ですから元肥は速効性肥料や多肥は極力抑えましょう。

④物理性改善やCO2のためにも有機物は確実に投入しましょう。

⑤腐植率やCECを維持することで栽培環境も改善されて来ますので十分な施肥に努めましょう。